

# 百葉

*Manyoh*

## 第2期櫻華塾・開塾！

～ 51期生 誕生 ～

一冊の会永久最高顧問・相馬雪香先生のお膝元である憲政記念館・尾崎行雄記念財団応接室にて第2期櫻華塾の開塾式が行われました。

晴天に恵まれた12月20日。記念すべき第2期櫻華塾の1回目には、新メンバーが集いました。10月25日に「一冊の会50周年・感謝の集い」を開催後、石田理事長となって初めての櫻華塾です。1965年“一冊の会サロン”として開始。その中の一つが“尾崎行雄G”でした。42年後の2007年（平成19年）5月30日に櫻華塾号堂Gと名称を変更して相馬先生ご出席のもと応接室で再スタートしたのは約8年前。（当時全国で33G）この度、満を期して新出発した第2期も同じ応接室からでした。大槻会長と小山副会長の念願が叶った瞬間でした。

小山副会長・事務局長の司会進行で執り行われた開塾式は、一体感のある熱気に包まれ大成功でした。

一冊の会が50周年を迎え、大きな転換点となった今年、櫻華塾の体制も一新されました。50周年までは第1期櫻華塾、(52G) 51年～100年が第2期櫻華塾となります。また、人脈によるグループ制ではなく、一冊の会51年目の現在の塾生を51期生とし、52年目の入塾生を52期生、次の年を53期生として、年毎に更新される制度に変更となりました。

大槻会長・塾長から、①東日本大震災と原発事故から5回目の年越し ②12月18日日韓国交正常化50周年 ③来年日本の国連加盟60年等お話がありました。特に震災支援では、被災地への支援は100回を越え、大槻会長と小山副会長は「本当に欲しい物」「自分が貰って嬉しい物」を毎回届けて来られま

した。被災者が本当に欲しい物は、現地へ行かないと分かりません。現地に寄り添い、生の声を聞き、支援を重ねて参りました。被災地が復興するには、まだまだ支援が必要です。これからもアナウンスして参りますので皆様ご協力くださいますようお願いいたします。一冊の会は識字活動を土台として、様々な活動を行っています。今年は「終戦70年」の節目の年。終戦後8ヶ月で女性参政権行使に至りますが、実際には戦前・戦中の活動があつてのことです。何事も前後があること、ぶつ切りの情報だけでは全体を見ることはできない、との大槻会長の思いから、塾生に今後の塾の議題が問いかけられました。何を学ぶかを塾生自ら意見を出し合いながら、開催されていきます。各々がよく考えて平和・人権・識字の上からどの時代から学んでいきたいのかを希望や提案を提出することになりました。



また、嬉しい発表もありました。この度、一冊の会親善大使に「阿波踊り・さくら連」が加わりました。この発表に全員が大喜び。10月25日黒雅叙園で開催された「感謝の集い」第二部で素晴らしい阿波踊りを披露して下さった高田代表と丹羽事務長へ賞賛の拍手を送りました。特に高田代表からは全員の衣装を揃えて真心の演技を披露したこと。自分が50周年にどうやったら貢献できるかを考えられての自発の行動です。その思いをお聞きし、皆さん感動致しました。



50周年を踏まえ、石田理事長から代表メンバーに記念品を贈呈して頂きました。「一冊の会に各国大使から頂いた物は皆さんにお分けする」という大槻会長の欲のない真心が現れた、とても価値あるプレゼントでした。頂いたメンバーは、これからの活動を誓い、一人ひとりが「友好大使」と心に刻んだことでしょう。

しかしながら、何にも勝るプレゼントは、51期生を前に石田新理事長が話された内容です。「この塾は、ここにいる皆さん一人ひとりが中心となるのです。先入観で物を言わず、事実をおさえ、自分で自立して考えること。」一人ひとりが学び、考え、創っていく塾であることを丁寧に説かれました。それは一冊の会櫻華塾が長年築いてきているポリシーです。次に、この場所がどういう場であるのか、尾崎行雄の精神、憲政記念館の礎となったもの等、思いを込めて語って下さいました。もっとお聞きしたい！と思う心を押さえ切れないメンバーも多数いたようです。一同、石田理事長のお話に刺激を受け、自分はこれから櫻華塾をどうしていきたいか、ワクワクしながら思いを巡らせているようでした。

今後は、塾生も講師を務めるチャンスがあります。第1期50年間の中で薫陶を受けた人は、2016年度から塾に5回出席し、選抜面接に受かったのち担当講師の前座で、まずはミニ講師にトライ。そしてミニ講師から一人の講師へ。外部での講演も出来る独り立ちへと進んで参ります。誰にでもチャンスは用意されています。自分が如何に学ぶか、発信していくかは櫻華塾生一人ひとりの闘いでもあります。大槻塾長と石田理事長の下、皆様共に励んで参りましょう。

今回、出席された方も欠席届を出された皆様も、次回を心待ちにされていると事思います。次回日程が決まり次第、ご連絡致します。

◆ 「50周年・感謝の集い」を振り返って ◆

10月25日に開催されました一冊の会50周年感謝の集いの感想を、若手メンバーの赤田美香子さんと瀧川が代表して発表させていただきました。

識字担当の赤田さんは、冷戦時代にソ連とアメリカを本で結んだ活動から心に刻んだ思いや、当日の運営で経験を積むことでキャリアが身につくと実感したことを述べられました。

瀧川からは、運営委員は四苦八苦しながら先輩の陰の支えに助けられたこと、大槻会長と小山副会長が第二部の渉外を全て手配されたことに感謝し、これからも学び続ける思いを伝えました。

◆ 12月9日タンザニア独立記念日をお祝い ◆

タンザニア連合共和国の独立記念日に一冊の会の代表がタンザニア連合共和国パチルダ・Sブリアン大使閣下主催のお茶会にお招きいただきました。当日の様子と参加しての感想を村岡清佳さんが発表。お茶会当日に読まれた大使へのメッセージを日本語で紹介くださいました。また、輪島塗で表紙象嵌のアルバム2冊に一冊の会51年の軌跡をまとめ贈呈。ブリアン大使はこれまでの活動を理解され、大変に感動されていたご様子でした。(当日の様子は、万葉1088号にて詳しく紹介しております。)